

Ⅳ 芦別市教育委員会としての方策

学力向上のため、芦別市教育委員会として「授業改善」と「生活習慣の確立」を車の両輪と位置づけた取組を推進します。

1 授業改善を中心とした方策

子どもたちに基礎的・基本的な確かな学力を確実に習得させるために、第1には「日々の授業改善」、第2に「学習環境の充実」に焦点を当てて重点的に推進します。

(1) 「日々の授業改善」

学力向上のためには、児童生徒の教育に直接かかわる教職員の資質・能力の向上を図ることが重要であることから、次の取組を着実に推進します。

- ① 北海道教育委員会の指導主事を招へいし、授業参観や研究協議を通して教育活動や授業改善のための指導助言を受け、授業研究を中心とした校内研修の充実を図ります。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各種教育機関の研修会情報を速やかに提供するとともに、教職員への参加を推奨していきます。
- ③ 学力・体力・家庭学習の定着・規則正しい生活・読書習慣について、数値目標を設定し、中間評価・年度末評価などの節目で点検し、目標達成に取り組めます。同時に、その状況と学校の対応を公表します。
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、目標指標を位置づけた校内研修を推進します。
- ⑤ 各種学力検査（市内統一学力検査、全国学力・学習状況調査等）の結果を全教職で分析し、学校改善プランを作成することで、学習規律やノート指導、補充学習、学び方を育てる指導など学力向上に向けた具体的な方策を組織的・計画的に取り組めます。
- ⑥ 児童生徒による授業評価をもとに指導法の工夫・改善に取り組めます。
- ⑦ 芦別市小中一貫教育協議会を核に、それぞれの中学校校区で目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を踏まえた教育活動を推進し、児童生徒間の交流や教職員間の連携を進めます。

(2) 「学習環境の充実」

児童生徒が学習しやすい環境を整備し学力向上を図るため、次の取組を推進します。

- ① 国の教員加配制度の活用や学習サポート教員等の配置により、学力向上に向けた指導体制の整備を図り、TT（ティームティーチング）、習熟度別少人数指導など学習形態の工夫・改善を行い、個に応じたきめ細やかな指導がなされるよう学習環境の充実を図ります。
- ② 特別支援教育学習支援員の活用により、通常学級に在籍する学習に困り感やつまづきのある児童生徒に対する支援や学力下位層に対する支援を充実し、全体的な学力の底上げを図ります。
- ③ 基礎学力の定着や学習習慣の定着を図るため、学習用ドリル等を購入するほか、新聞を活用した授業を展開できるよう児童生徒の学習を支援します。
- ④ コンピュータや実物投影機等のICT機器の効果的な活用を図り、学習指導の工夫・改善を図ります。
- ⑤ 授業時数の確保、各教科の年間指導計画の改善など教育課程の編成・実施・評価・改善を適切に実施します。
- ⑥ チャレンジテスト・学力テスト等を計画的に実施して、子どもたちの学力状況を把握し、補充・

進化・発展する学習指導を充実します。

- ⑦各種検定試験などを推奨し、目標を持って取組成果を出すことの喜びや達成感を味わうことで、学習意欲の向上と基礎学力の向上を図ります。

2 生活習慣の確立のための方策

確かな学力を支えるためには、「規則正しい生活」と「家庭学習」は欠かせないことからその定着に積極的に取り組みます。

- (1) 保護者や地域に向けた「教育だより」を発行し、基礎的・基本的な学力を身につけることの意義や重要性、そのための家庭学習の定着をはじめ、生活習慣の確立には保護者や地域の果たす役割は大きく、その関心を高めるため具体的な手立てを掲載するなど、役立つ内容を継続的に情報発信します。
- (2) 生活リズムチェックシート等を活用し、自らの生活時間をコントロールできる資質能力を育成し、家庭学習の習慣化を図ります。
- (3) 長期休業中における「学習会」を開設し、長期休業中の意義、時間管理の育成、補充的な学習の機会とするなどの取組を推進します。
- (4) 各種検定試験（漢字検定、算数・数学検定、英語検定）の受検料について公費助成を行い、家庭の協力や励ましのもとに目標を達成する喜びを与えます。
- (5) 朝読書や家での読書、読み聞かせなど、文字（言語）に親しむ資質を学校と家庭、さらに学校と図書館等が連携して取り組みます。
- (6) 一校一実践の取組や体育の授業や体育的行事への参加により運動への関心意欲を高め、新体力テストの結果分析を活用するなど体力向上の取組を推進し、運動の日常化を図る取組を強化します。